

トラビック&アダプテッドエアロビック大会 2010 記事

2010年10月6日

東京新聞記事



<http://www.tokyo-np.co.jp/article/kanagawa/20101006/CK2010100602000048.html>

【神奈川】

エアロビで高齢者の交通事故防止 『トラビック』県警が開発

2010年10月6日



多発する高齢歩行者の交通事故を防止するため、県警交通総務課は全国で初めてエアロビクの動きに交通安全対策を組み合わせた運動「トラビック」を開発した。トラビックは「トラフィック」（交通）と「エアロビック」を掛けた造語。同課は「楽しく体力向上を図りながら、事故に遭わない安全行動を身につけてほしい」と、その効果に期待を寄せている。（細見春萌）

同課によると、六十五歳以上の歩行者の死亡事故は今年に入り九月までに三十五件で、交通事故死者全体の約三割。特に、七十五歳以上では、昨年同期比で二倍の二十四件と急増している。

同課は各地で高齢者の安全教育に力を入れてきたが、「交通安全教室を終えた直後に信号無視をしている人がいた」（同課の担当者）といい、効果が薄いため、体で覚えてもらおうとトラビックを開発した。

曲は「春がきた」や「茶摘」など童謡五曲のおなじみのメロディーに、「たまには後ろも振り返ろう」や「青くなっても右左」など、課員が考えたオリジナルの歌詞が付く。

振り付けは理学療法士と共同で考案し、両手を伸ばしたり屈伸する運動を通じて、左右の安全確認や横断歩道を渡る意識が身につくという。

今後はDVDを作成し、県内の各警察署に配布し、交通安全教室などで広めていく。

障害者スポーツ文化センター（横浜市港北区鳥山町）で十日に行われる、高齢者や障害者を対象とした全国初のエアロビック大会で、初めて披露される予定。



http://news.tbs.co.jp/20101010/newseye/tbs_newseye4547193.html

高齢者の交通事故防止の踊り、トラビック



11日の体育の日を前に、高齢者を交通事故から守るために考案されたある踊りが初めて世間にお披露目されました。果たして、その踊りとは一体何なのでしょう。

「車に見えない場所はどこ～、車のかげや塀のかげ～」

初めて披露された踊り「トラビック」。「トラビック」とは、交通の *t r a f f i c* とエアロビックを掛け合わせた造語で、高齢者が交通事故を防ぐにはそれを回避するための体力も必要だという考えから考案されました。音楽は高齢者に馴染みのある童謡をエアロビック用にアレンジ。

交通安全を訴える歌詞に乗せて踊ります。

主催者は、今後、踊り方を収録したDVDを配るなどして「トラビック」を普及させたいとしています。(10日16:04)

2010年10月10日 読売新聞記事



<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/kanagawa/news/20101011-OYT8T00024.htm>

「交通安全教育＋エアロビック 「トラビック」 初披露」



「トラビック」を行う県警の高齢者交通安全マスコットと高齢者ら

交通安全教育とエアロビックを組み合わせた新しい運動「トラビック」が10日、横浜市港北区の横浜ラポールで初披露され、高齢者ら約600人が汗を流した。運動で体力向上を図り、急増する高齢歩行者の事故防止に役立てようと、県警が全国で初めて開発した。

トラビックは、英語で「交通」を意味する「トラフィック」と「エアロビック」を掛けた造語。県警と県エアロビック連盟が創作した。「春がきた」などの童謡に、交通安全を啓発する歌詞を付け、盆踊りのように高齢者でも覚えやすい動きを合わせたのが特徴だ。

会場では、高齢者らが、「右、左」と音楽に合わせて声を出しながら、高くひざを上げるなど軽快に体を動かした。

同区の無職三浦芳人さん（77）は「いい運動になった。今後も続けたい」と笑顔で話した。

(2010年10月11日 読売新聞)

2010年10月13日 ラジオ日本「ヨコハマろはす」



<http://yokohama.jorf.co.jp/lohas/cat20828851/index.html>

スタジオから

2010年10月13日(水)

<10月13日(水)のラインナップ>

★9:40～「ソレ知りた～い」

テーマ:**トラフィック**

トラフィック(交通)とエアロビックを掛けた造語

電話出演:神奈川県警交通安全教育隊

坂入典子(さかいり・のりこ)さん

エアロビックの動きに

交通安全対策を組み合わせた運動を紹介。

